

平成29年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	救急患者対応シミュレーション実習	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	医学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	望月勝徳 (医学部救急集中治療医学)	
取組の目標	緊急性の高い病態の想定下で、シミュレーターを用いた模擬診療を行うことで、①医学生の救急患者対応能力の獲得、②診療参加型臨床実習における医学生の主体的な診療参加や学修の促進を目指す。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模擬診療中の活動状況をビデオ撮影して、事後検証の材料とすることで、学生自らが客観的視点から、個々の診療能力、診療チームとしての組織的活動能力について具体的な改善点を見つけられるようにした。</li> <li>2. 模擬診療の事後研修から発見した具体的改善点を参加者全員発表しあうことで共有し、その際に作成した記録用紙をポートフォリオとして学生自ら保存し活用するようにした。また、その内容を指導教員もスキャンデータとして保存し、関連情報を整理・解析して共有することで、シミュレーション実習の質の向上を図った。</li> <li>3. 救急患者対応のシミュレーション教育を取り扱う会議・学会等へ参加・発表し、指導教員のファシリテート能力向上を図った。</li> </ol>	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望  (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	b. おおよそ達成できた	<p>(評価理由)</p> <p>ビデオ撮影に基づくシミュレーション後のデブリーフィングで、救急患者対応時や今後の臨床実習に向けた具体性のある課題設定がポートフォリオに記載されるようになった。学生アンケートの結果でも本取り組みが効果的であるという結果が得られた。</p> <p>(今後の展望)</p> <p>今回収集を開始したデータはまだ少数であるため、今後は収集データを蓄積してより効果的な指導ポイントについて解析して明確化し共有していく予定である。</p>